名ぜりふで読み解く日本史　呉座 勇一　— 10 —

北条政子

「その恩、既に山岳より高く冥渤（めいぼつ）より深し」

［　　］より

さすがの政治センス

横浜市南区の乗運寺にある北条政子の座像（乗運寺提供）

鎌倉幕府最大の危機は承久3（1221）年に勃発した承久の乱だった。朝廷を統べる後鳥羽上皇が鎌倉幕府に不満を持ち、挙兵したのである。

朝廷の軍事力は幕府の軍事力には全く及ばないものだった。にもかかわらず、後鳥羽上皇が挙兵を決断したのはなぜか。

実は後鳥羽上皇は「倒幕（幕府打倒）」を宣言してはいない。鎌倉幕府の御家人たちに対し、源頼朝の妻北条政子の弟である鎌倉幕府執権の北条義時の追討を命じている。後鳥羽上皇は討伐対象を義時に絞ることで、多くの御家人が幕府を裏切る事態を期待していた。

1219年に鎌倉幕府3代将軍の源実朝が暗殺され、犯人の公暁（実朝のおい）も殺された。頼朝直系の子孫は鎌倉からいなくなってしまった。

義時は皇族を将軍に迎えようと考え、朝廷と交渉したが、後鳥羽上皇に拒否された。そこで幕府は頼朝の遠縁にあたる摂関家出身の三寅（のちの4代将軍藤原頼経）を実朝の後継者として鎌倉に招いた。しかし三寅は当時わずか2歳（数え年）。すぐに将軍にはなれず、後見役の政子が「尼将軍」として力を振るった。

鎌倉幕府の創始者である頼朝に仕えた御家人たちにとって、頼朝の子孫に忠誠を尽くすのは比較的了解しやすいことだが、摂関家出身の幼児に忠誠を尽くせと言われても、なかなか納得できるものではない。中には強く反発した御家人もいた。

その一人が三浦胤義である。胤義から見れば、三寅は北条氏が仕立てた操り人形で、同格の御家人にすぎない北条氏の命令には従えないという気持ちが強かった。胤義は後鳥羽上皇に接近し、挙兵を促したという。

さて、歴史書「吾妻鏡」によると、後鳥羽上皇の義時追討令に動揺する御家人たちを前に、政子は演説を行ったという。

「皆、心を一つにして聞きなさい。これが私の最後の言葉です。亡き頼朝公が朝廷に歯向かう平氏を征伐し、鎌倉幕府を開いてから、官位といい俸禄といい、御家人に与えた御恩は、既に山よりも高く海よりも深いものです。恩に報いようというあなたたち御家人の気持ちがどうして浅いことがあるでしょうか。ところが今、悪い考えを持つ臣下にだまされた後鳥羽上皇が誤った命令を出されました。名誉を重んじる御家人は早く藤原秀康、三浦胤義らを討ち取り、3代にわたる将軍が残した幕府を守るべきです。ただし後鳥羽上皇に味方したいと思う者は、今ここで申し出なさい」

つまり政子は、頼朝から受けた御恩の大きさを御家人に思い出させ、幕府への奉公を説いたのである。本来、御恩と奉公の関係とは、将軍と御家人という個人対個人の関係を指した。そうすると源氏将軍が断絶した時点で、御恩と奉公の関係は消滅してしまうことになる。だからこそ後鳥羽上皇は、幕府打倒のチャンスと認識したのである。

だが政子は、将軍から受けた御恩を「将軍に返す」よう訴えた。政子は、頼朝という特定個人への奉公を、組織への奉公にすり替えたのである。この辺りの政治センスはさすがと言うほかない。

政子の演説を聴いて奮起した御家人たちが結束し、後鳥羽上皇軍に圧勝したことは、周知の通りである。まさに歴史を変えた名ぜりふだ。（日本史学者）

（第4土曜日に掲載します）

（2019年10月26日付・岩手日報14面）

1．北条政子の「その恩、既に山岳より高く冥渤（めいぼつ）より深し」という言葉は、後鳥羽上皇が鎌倉幕府に不満を持ち、挙兵した戦いの前に、御家人に対して述べた言葉とされる。その戦いの名称を書きなさい。

承久の乱

2．後鳥羽上皇は「倒幕（幕府打倒）」を宣言せずに、当時の鎌倉幕府執権を追討することを御家人に対して命じている。当時の執権で追討を命じられた人物名を書きなさい。

北条義時

3．記事の［　　］にあてはまる歴史書の名称を書きなさい。

吾妻鏡

4．北条政子の「その恩、既に山岳より高く冥渤（めいぼつ）より深し」はどのような意味ですか。記事の中から抜き出しなさい。

御家人に与えた御恩は、既にやまよりも高く海よりも深いものです。

※この部分の前後が含まれても抜き出していれば可。

5．本来、御恩と奉公の関係とは、将軍と御家人という個人対個人の関係を指したが、北条政子は頼朝という特定個人への奉公を何への奉公にすり替えたと書かれていますか。抜き出しなさい。

組織

6．北条政子の言葉の他に、あなたが日本の歴史や世界の歴史を変えたと思う名ぜりふを探してみましょう。

略

年　　組　　名前

出題・監修は日本新聞協会認定ＮＩＥアドバイザーの女鹿芳文さん（県立総合教育センター主任研修指導主事）